

占領期の性暴力を問う

占領期という特殊な時期の特殊な話ではない

占領軍将兵用慰安施設から性病検診のための強制検挙へ

2015年1月24日（土）14:00 ～ 17:00

場所 京都大学文学部新館地下大会議室

参加無料・当日参加大歓迎です！

本報告会は2014年11月21日に一橋大学ジェンダー社会科学センターで行われた報告会を発展的に継承した報告会です。

第1報告 14:00～15:00

平井和子（一橋大学社会学研究科特任講師）

「兵士には性的慰安が必要。それを欠くと暴走する」という認識（「男性神話」）は、女性を「護るべき女性」と「差し出す女性」とに二分化する「性の防波堤論」を支え、軍「慰安所」を生み出した。本報告では、敗戦後、占領軍向けにつくられたRAAと「特殊慰安所」の全体像を示し、そこで展開した「日米合作の性管理」の性暴力の下、分断された女性たちのあり様を見つめる。非軍事へ向けた女性たちの「出会い直し」のために。

報告者紹介

静岡大学、大妻女子大学等で非常勤講師を経て、現在一橋大学ジュニアフェロー。専門は、近現代女性史・ジェンダー史。特に占領期の性政策、米軍基地と売買春に関する研究をしてきたが、さらに「軍隊と性暴力」の密接な関係究明に向けて日米の兵士のセクシュアリティ研究を進めたい。

著書・論文『日本占領とジェンダー—米軍・売買春と日本女性たち』（有志舎、2014年）、『「ヒロシマ以後」の広島に生れて—女性史・ジェンダー・ときどき犬』（ひろしま女性学研究所、2007年）など。

第2報告 15:00～16:00

茶園敏美（本学アジア研究教育ユニット研究員）

性病検診のために強制的に検挙されたおんなたちはパンパンという蔑称で、更生や救済の対象とみなされてきた。彼女たちは現代のドラマでも、GI（米兵）たちとたわむれる姿で描かれている。本報告は、占領期にGHQ主導で行われた性病検診のための強制的な検挙がおんなたちの人権を侵害した性暴力であったことに焦点をあて、彼女たちの尊厳回復への支援につなげたい。

報告者紹介

大阪大学博士（文学）。現在、京都大学学際融合教育研究推進センターアジア研究教育ユニット研究員。専門は、ジェンダー史、他者表象、パンパン、性暴力等。占領期の性病の強制検診をジェンダーの視点で考察。

著書・論文『パンパンとは誰なのか—キャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性』（インパクト出版会、2014年）、「占領期のキャッチとおんなたちの「声」占領期日本における不問にされた性暴力」（『女性学年報』第34号、2013年）など。

質疑応答：16:20～17:00

お問い合わせ☆茶園敏美研究員e-mail: chazono.toshimi.7z*kyoto-u.ac.jp(*を@に変えてください)